

台木専用種

交配

親交南瓜

●青枯性イチョウ病に強い…
西瓜台木に好適!

がっちり

と
健苗育成

●夕顔ツルワレ病抵抗性
西瓜の形状・品質・抜群!

タイガー印1dl入絵袋詰

本種の特性

- 本種は西瓜の台木として親和性がよく、着果、品質の安定を目的として育成した台木専用品種で食用には不適である。
- 新土佐や金糸南瓜に比較して、ツルは硬く、葉は小形で、ツルボケが少く着果が安定する。
- 育苗は徒長せず、双葉も小さく、葉は濃緑で硬く接木作業や育苗は極めて容易である。
- 金糸南瓜より乾燥に強いから、ツルが永持ちして最後まで品質の低下が少く、又、かんびょう台木で青枯性イチョウ病の発生する地帯や、生育後半に乾燥する産地によく好適する。



- 西瓜の台木は《かんびょう》が主として使用されてきたが、産地が固定して大型化すると、輪作年限が短くなり、『夕顔台木』では青枯性イチョウ病等の発生が年々多くなってきた。従って新土佐南瓜や金糸南瓜に変わってくる傾向にあったが、これらの南瓜台木も、ツルボケ、品質の不安定等の欠点が見られて市場性を悪化したので、この点を改良したのがこの《交配・親交南瓜》です。

交配 親交南瓜

❖ 西瓜の台木に大好評 ❖

根の伸長、吸肥力が旺盛で草勢が強く、施肥と天候に左右され易く、着果が不安定になる。

南瓜台木の中で最も夕顔に近似して生育が安定し、乾燥に強く、品質が良好である。砂質土、火山灰土と土壌適応性は広く、イチョウ病に強い。

草勢は強く、施肥量に注意する。根群は浅く、広く、赤土、火山灰土壌に適しイチョウ病に強い。

根群は深層に伸び、乾湿に強く品質良好であるが、近年イチョウ病の発生頻度が多い産地では注意が必要。

台木南瓜は

親和 + **耐病** + **品質**

の時代です。

本種の特長及び栽培の要点

- (1) 西瓜の台木として親和性抜群です。
- (2) 草勢は白菊座、新土佐に比較して生育が安定し、雌花の着生、成育が良く《ツルボケ》知らずと言われているほど、かんぴょうに近似しています。
- (3) 写真でも判るように根数が中程度で、根は比較的細く、南瓜台木の中では高温多湿や乾燥に強い。
- (4) かんぴょうのイチョウ病（ツルワレ病菌）に抵抗性で、青枯性のイチョウ病を防ぐことができる。
- (5) 種子は小粒で、双葉が小さく、従って床面に光線を多く受けられる。
- (6) 胚軸が太く、徒長せず、接木作業は極めて容易で、葉は濃緑で硬く育苗がしやすい。
- (7) 生育が良く、根群の発達が良好であるから、45日内外の苗を定植するのがよい。
- (8) 西瓜の果実の外皮は濃緑となり、品質はセンイが少なく、南瓜台木のうちでも、最も甘味、食味がよい。
- (9) 根の低温伸長性が強く《かんぴょう》より1℃内外低い地温で定植可能で、早植えができる。
- (10) 定植はできるだけ土壌水分を多い目として、肥料も夕顔（さきがけ）より多く施すことが、作柄ら安定の秘訣である。

